

＜株式会社エフエム東京 第 515 回放送番組審議会＞

1. 開催年月日：令和 7 年 2 月 4 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 11 階大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（6 名）

ロバート キャンベル 委員長	佐々木 俊 尚 委員
松 田 紀 子 委員	山 口 真 由 委員（レポート）
柴 崎 友 香 委員	福 里 真 一 委員

◇欠席委員（0 名）

◇社側出席者（5 名）

唐島 夏生	代表取締役社長執行役員
内藤 博志	取締役執行役員編成制作局長
宮野 潤一	編成制作局次長 兼 編成部長
山領 由紀	編成制作局制作部長
橋本 颯希	編成制作局制作部プロデューサー

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 内藤放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴 （55 分）
『喋るズ 月曜「エフエムレインボー」』
2025 年 1 月 20 日（月） 20:00～20:55 放送

＜議事内容＞

議題 1:最近の活動について

■2024 年 12 月度 聴取率調査結果

ビデオリサーチ 2024 年 12 月度の首都圏ラジオ合同聴取率調査結果を報告します。
（調査期間：2024 年 12 月 9 日～15 日）。6:00～24:00 の週平均におきまして、
TOKYO FM は当社コアターゲット【男女 18～49 才】、また【男女 12～59 才】、
個人全体となる【男女 12～69 才】の区分において、今回は主要 3 カテゴリーで
すべて単独首位を獲得することができました。

- ・男女 18～49 歳 ： 単独首位 ※22 年 2 月以来 18 期連続首位
- ・男女 12～59 歳 ： 単独首位 ※22 年 2 月以来 18 期連続首位
- ・男女 12～69 歳 ： 単独首位 ※22 年 4 月以来 17 期連続首位

【男女 18～49 歳】（メインターゲット）

	全局	TFM	J-WAVE	LF	TBS	QR
今回（12 月度）	3.3	0.5	0.4	0.4	0.3	0.2
前回（10 月度）	3.0	0.4	0.3	0.4	0.3	0.2

【男女 12～59 歳】

	全局	TFM	J-WAVE	LF	TBS	QR
今回（12 月度）	3.6	0.6	0.4	0.5	0.4	0.2
前回（10 月度）	3.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.2

【男女 12～69 歳】（個人全体）

	全局	TFM	J-WAVE	LF	TBS	QR
今回（12 月度）	4.1	0.6	0.5	0.5	0.4	0.3
前回（10 月度）	4.0	0.5	0.4	0.5	0.5	0.3

曜日別では平日デイトタイム帯が各年代とも好調で、課題としていた平均聴取分
数も前回より伸ばすことができました。また土日番組もターゲット層を中心に同
時間帯トップを多数獲得できており、平日・土日ともにバランスよくスコア獲得で
きたため、週平均の聴取率が上昇する結果となりました。次回の 2 月度調査週も、
主要ターゲット区分での在京トップを継続できるよう、内容面の充実と話題性、リ
ーチ獲得の双方に磨きをかけてまいります。

議題 2：番組視聴

【番組名】

『喋るズ 月曜「エフエムレインボー」』

2025 年 1 月 20 日（月） 20:00～20:55 放送

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、1 月 20 日（月）に放送した『喋るズ 月曜「エフエムレインボー」』のダイジェストです。

『喋るズ』は、今年の 1 月から新たにスタートした新ワイド番組。“TOKYO FM×芸人ラジオ”の新たなコンテンツレーベルとして旗揚げし、コンビの垣根を超えた組み合わせや、エッジの利いたコンセプトの曜日別 4 番組仕立てとなっています。これまで AM ラジオの専売特許ともいえるお笑い芸人ラジオの一般的なイメージを逆手に取り、実験的側面を持ち、ただのトーク番組ではない、ただの音楽番組でもない FM ラジオの遊び方を模索していきます。

月曜は若手人気コンビのレインボーによる『エフエムレインボー』、火曜は火曜日は銀シャリ・橋本&ガクテンソク・奥田による『橋本・奥田の銀銀学学（ギンギンガクガク）』、水曜日は見取り図・リリー&ニューヨーク・嶋佐による『リリー・嶋佐のソプラノ C』、木曜日はヒコロヒーによる『トーキョー・エフエムロヒー』。

今回お聴き頂く 1 月 20 日（月）の放送回では、パーソナリティのレインボー・ジャンボたかおが X に投稿したカレー大盛がバズって、リスナーから多数のカレー投稿が寄せられたことから、テーマを「食のこだわり」とし、リスナーからメッセージや X 投稿を募集しました。また、ジャンボたかおがリスナーのどんな小さな悩みにも真剣に向き合う「ジャンボたかおの、俺がお前らを抱きしめてやる！！」のコーナーでは、職場で 1 人残業中のリスナーと生電話を繋ぎました。



【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側意見）

○試聴回の月曜と、他の曜日も聴かせて頂いた。番組時間が平日夜 8 時からの 1 時間ということで、ちょうど仕事が終わって家に帰って来てホッとしたいとか、ゆっくりしたいという時間帯に合う、聴きやすくってちょっと楽しい気持ちになれる番組だった。芸人だが、穏やかで優しい感じの話し方で、それは今の世の中に合っていると思う。特にリスナーとの電話での会話のところで、すごくポジティブに褒めている様子が、こういう感じが今必要なのかと思いながら聴いた。電話の向こうのリスナーから「本当ですか？」とリアクションがあったのがリアルで、そういう素直な感想が出てくるような聴き方を、ジャンボ氏がしていた。残業中というのもリアルで状況が良く伝わって来た。「お前が会社を救ってるから」と、そこまで強くポジティブに何回も言わなくても、と思いつつも、まだスタートしたばかりなので、これからリスナーとの良い関係を築いていってほしいと思う。

○TOKYO FM なのに関西弁率が高いのが、関西出身の自分としては、若い頃を思い出して、それが良いとか悪いとかではなくて、東京と名の付くラジオでもこういうのがあるのかと感慨深い気持ちになった。

○月～水が吉本の NSC の方ということで、それぞれの個性はもちろんあるが、もう少しバリエーションがあった方が良かったのではと思った。木曜のヒコロヒーがとてもカラーがくっきりしていると思う。他の曜日も新番組ということでこれからだと思うが、この曜日はこうだ、というカラーが出てくるといい。

○毎回、試聴番組は何を話そうと思いながら聴くことが多いが、今回はあまりそういうことを考えず、単純に一リスナーとして聴いた。試聴回と、ヒコロヒーの曜日しか聴けなかったが、試聴回の月曜日はやっぱりまだ始まったばかりで手探りの感じが生々しく伝わって来て、聴いていてある種の緊張感があり、ここから番組が育っていくんだという親目線での参加という雰囲気を感じた。

○ポジティブで明るい感じ、月曜ならではの背中を押してほしい感じが伝わって来て、好感が持てるトーク内容だった。ただ、どこに特徴を出していくのかは全体を通して気になった。芸人番組は、他局での事例もあるが、成功すればイベントやグッズなどで収益化が見込めると思う。それぞれの曜日が個性を出して大暴れしながら、全体の「喋るズ」になったときにまた違う力を発揮してどういう聴かせ方や売れ方をするのか、ブランディングが大事だなと思いながら聴いた。

○1 つ気になったのは、生電話を残業中の方と繋いでいたところ。昨今騒がしいコンプライアンス的にはどうなのだろうと。残業しながらラジオに出演するのはいい

いのか、万が一、声で本人が特定されたら、番組が責任を問われることがあるのか、ということが気になった。

○他の曜日も聴いたが、リスナーからのメッセージがあまり面白くないということがあった。人気番組に共通しているのは、はがき職人のようなリスナーが育って行くことが肝かと思う。リスナーからのメッセージのノリから名コンテンツが生まれたりもするので、その突破口が開くといいなと期待している。

○今、FM 的、AM 的ということがあるのかは分からないが、お笑いという AM 的番組を今どうして始めたのかは意図を聞いてみたいと思った。構成については、私自身が若い頃に聴いていた定番というか、リスナーからの投稿を読んで電話を繋いで、という王道を行く形。ただ 1 つ大きく違うのは、とにかく毒舌はなし、下ネタはなし、ということ。どんな投稿に対してもおもしろいねと、リスナーの全てを肯定するよ、と全肯定で受け止める感じは、確かにおもしろさはないのだけれど、ネットやテレビで誰かを批判するようなことが多発する昨今、もう何も見聞きしたくないなという時に、ここに来れば食へのこだわりをのんびり語り合う樂園があるというのは、いいことなのかもしれないと思う。

○AM 的なもの、FM 的なもの、昔のイメージでは AM は喋り中心で、FM は音楽中心の番組、あるいは空気のようにそこにあるというようなものだったかと思う。現在はワイド FM などもあり、AM、FM の違いをあまり意識せず、聴かれているように思う。音楽の入り口という意味では、もうラジオではなく、音楽サブスクや SNS に変わっていると思う。例えば、車の中でいかに気持ちよく過ごせるかとか楽しめるかということがラジオの役割なのかなと。その中で FM 番組に芸人が出るというニーズは確かにあるのでは。芸人の役割が何なのかは前からよく議論になっていて、一番なるほど、と思ったのは、鉄板ネタを持つあるピン芸人が「僕らの本質はこういう一発芸じゃなくて、テレビのひな壇でワーワー言うのも違う、その場の空気を読んでコミュニケーションを滑らかにすること」と言っていた。確かに、テレビのワイドショーなどに芸人がたくさん出ていて、間の取り方とか、ちょっとした一言をさっと差し込んだりとか、そういうのがとてもうまいと感じる。なかなか政治や経済を扱うニュースだと文脈が違うのかもしれないが、この存在感はもっと注目されてもいいのではないかと思う。ひな壇という形式ではうまく消費しきれていないのでは。そういう意味で今回の試聴番組は芸人の存在をうまく引き上げて新しいやり方ができると期待する。お笑いの世界も一昔前のように、誰かを攻撃するようなものがあまり受け入れられなくなっている。若いお笑いコンビも人を攻撃しないことを言明している。このレインボーのお 2 人も、まさに他人を攻撃しない、ただただご飯大盛の話ができる。仮に面白みに欠けたとしてもそれはそれでいいのだと思う。個人的には食事系の話はとても面白い。ご飯を固めに炊くかどうかで 1 時間喋れると言っていたが、そういう空間はとてもいいなと思う。

○昨今、X（旧 Twitter）はますます荒れていて、何かがあるたびに攻撃だらけになって見ているのもつらい時がある。15 年くらい前にサービスが登場した 2010 年頃は「ランチなう」といったような、誰も攻撃しない、批判されない気持ちのいい空間としての遊び場所として楽しまれていた。それを懐かしんで、少し前にミクシィがミクシィ 2 という新しい、誰も攻撃しない新しい場所を作った。時代の空気として、殺伐として荒れた世界に、ちょっとした楽園を作りたいというものがあると思う。穏やかな FM のお笑いが定着していくことに期待したい。とてもいい番組だと思う。

○聴取率が好調な状態でもすでに確立されたスタイルに甘んじずに、さまざまな実験的な試みにより聴取層を拡大しようとする意欲的な企画に、敬意を表したい。

○月曜日はコンビ、火曜日と水曜日はそれぞれコンビを超えた組み合わせで、敬語を含めた若干の距離感を含めて面白く拝聴した。他局の芸人ラジオをあまり拝聴していないが、少しお洒落な感じや選曲などに TFM っぽさが出ているのだろうと推察するし、そのスタイルは今後ますます確立されていくのだろうと思う。

○芸人というだけあって、それぞれの喋りは軽快で、延々と同じリズムで話が続き、一言一句真面目に集中して聞かなくても置いていかれることもなく、徐々にしゃべりが背景音のようになってきてあまり邪魔にならずに聴いていられるのがいい。滑舌がよい方が多く、早口で喋り続けられても「あれ、いま噛んだよね？」と引っ掛かることがないこと、長尺を取って大した内容のない小さなことをひたすら広げていけること、これはおしゃべりが上手い人の特徴。幼い頃、隣の部屋の母の長電話を聴きながら眠りに落ちたことを思い出して意外なほどリラックスした気持ちになり、芸人ラジオの黄金帯である深夜ラジオよりもちょうど 20 時くらいの時間に合うように感じた。個人的には、木曜日のヒコロヒーがお一人で言葉を重ねていかれるのが心地よかった。

○1 つ、「ジャンボたかおの、俺がお前らを抱きしめてやる！！！」のコーナーが少し引っ掛かった。素人の電話が入ることで、プロ同士の軽快な喋りの軽妙さが断ち切られるように感じたのと、世代によっては、「残業してるの？この電話の時間、まさか残業代に含めてないよね？ ちゃっちゃと帰って一杯飲んで寝たほうがいいよ」と感じられるところに「すごい大人！！！」と全肯定するパーソナリティと「沁みるわぁ」というリスナーのやり取りが、悩みに対する回答として、あまりに浅薄で、大袈裟すぎて興ざめするのでは。ジャンボ氏のキャラクターをよく知るコアなファン層が中心で、その層が若くて、こういうやり取りに共感できるのだろうが、せっかく TOKYO FM で放送して、ディープなお笑いファン以外も排除していないように見えたので、もう少し広い層に理解されるような内容だと良いのではないか。

＜第 515 回放送番組審議会議事録＞

■ 今後は、番組発のイベントやグッズ販売なども予定している。貴重なご意見を参考に番組作りに活かしたい。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「ドライバーズインフォ」

2月22日(土) 5:55～6:00 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <https://www.tfm.co.jp/>